

ご自由にお持ちください

絆

きずな

創刊号
2012年冬

市立小樽病院  病院広報誌
小樽市立脳・循環器・こころの医療センター

病院広報誌『絆』創刊のごあいさつ

今年から、新しい市立病院の建設工事がスタートいたします。

新市立病院は、コンパクトで高機能な基幹病院を基本方針に、小樽市内だけではなく、後志地域医療を統括する中心的役割を果たすことを目指しています。新市立病院がその特徴を十分に発揮し、進展していくことで、地域の皆さまに健康や安心、安全、信頼をもたらし、小樽市の発展に大いに貢献していきたいと考えています。

新市立病院では、優れた建物を造るだけでなく、その建物の運営にふさわしい「組織を創ること」が肝要と考えています。

現在二つある市立病院（市立小樽病院、小樽市立脳・循環器・こころの医療センター）の長所を生かし、充実した医療を提供できるような体制を整えてまいります。

その先駆けとして、これまで二つの市立病院が、それぞれに発行していた広報誌を一つにして合同で発行することとし、名称は、市民をはじめ来院される皆さまや、地域の医療関係の皆さまと、両院職員の心が結び付いていくという思いを込めて『絆』といたしました。

創刊する広報誌『絆』では、新市立病院建設の進捗状況や、両院の治療内容に関する解説、地域医療連携の取り組みなどをわかりやすくお知らせしていきたいと考えており、年4回の発行を予定しています。病院とともに皆さまに愛される広報誌を目指していきます。



小樽市病院局
局長 並木昭義



「第14回小樽雪あかりの路」
両病院で制作したオブジェです



特集

症状のない「脳」安心していませんか？

けいどうみゃくないまくはくりじゅつ

頸動脈内膜剥離術

国内有数の年間症例実績～小樽市立脳・循環器・こころの医療センター

脳梗塞で救急搬送されたSさん(70代男性)の様子をご家族から取材させていただきました。

その時は突然やってくる

1週間前からの指の痺れ、2～3日前からの手の痺れが、脳の疾患からきているものとは本人も周りの家族も予想していなかった。そして、その時はきた。就寝中にトイレに行こうとしたが、自分で体を起こすことができなくなった。意識はあるものの、さらに1時間後には言葉も話せない状態に陥った。指の痺れを前兆に始まったその病名は「脳梗塞」。救急車で病院に搬送され検査した結果、脳への頸動脈の血管が90%以上詰まっているという状態だった。

投薬

医師の診断の下に投薬治療を行ったが病状は改善されず、搬送から2日後に手術を行うこととなった。当然、手術にはリスクも伴う。「植物状態になるかもしれない」「障害がでる可能性もある」といった内容も含んでいたが、担当医師のみではなく手術チームの判断という説明は、今の可能な治療のうちではベストと納得できるものだった。

退院

手術は無事に成功し、Sさんは日に日に回復した。現在は、リハビリができる病院に転院し、つえをついて歩ける状態になった。退院前に地域医療連携室がSさんの状態や希望を考慮して、転院先を親身に探してくれ、病院の仕組みやリハビリの内容を聞いていたので、不安になることはなかった。

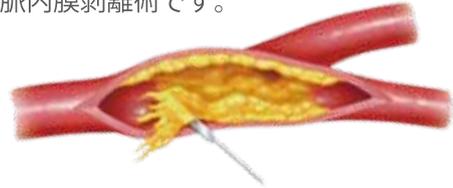
頸動脈疾患の術中・術後は、狭心症や心筋梗塞が発症する確立が非常に高い。小樽市立脳・循環器・こころの医療センターは、国内でもまれな脳神経外科医、心臓血管外科医、循環器内科医、ME(臨床工学士)が常駐し、連携できるシステムをとっている。頸動脈の術前に循環器内科で患者さんの心臓の状態の事前検査を行い、危険な疾患が見つかった場合は心臓の手術を先に行うこともある。

このような連携のシステムは、患者さんの命を守るためには非常に有効で重要な仕組みといえる。

けいどうみゃくないまくはくりじゅつ

頸動脈内膜剥離術

頸動脈の血管の内側の壁にコレステロールなど(プラーク)がたまり、血管が細くなると、塊が崩れ血流を塞いで破裂させたり、詰まりの原因となります。このプラークを取り除くのが頸動脈内膜剥離術です。



今回行われた頸動脈内膜剥離術の多くの症例実績を持つ新谷好正先生に話を聞いてみました。

「事前の予防が肝心」

手術が可能な患者さんも、もちろんいますが、予防が肝心だと思います。日頃から糖尿病、心臓疾患、高血圧などの持病のある方は、かかりつけの病院などで頸動脈エコーで状態を把握し、発症を防ぐなど事前の早期治療に努めることが肝心。地域全体の意識の高まりも予防につながりますので、患者さん本人だけではなく、周りの家族なども気を配ることが重要です。



また、脳梗塞発症から3時間以内に体内投与すると血栓の詰まりを溶解できる「tPA」という治療法もあるので、様子がおかしい場合はすぐに病院に相談することが望まれます。

小樽市立脳・循環器・こころの医療センター

脳神経外科医長 新谷好正

国際学会にて「ハイリスク症例に対する体外循環を用いた頸動脈内膜剥離術」を発表

■頸動脈内膜剥離術 平成23年実績 48件

家庭で予防する床ずれ（褥瘡）

できる前に
予防

市立小樽病院スキンケア管理室の
渡辺美和皮膚・排泄ケア認定看護師に、
床ずれ（褥瘡）について聞いてみました。

Q 床ずれ（褥瘡）はどのような人にできますか？

A 自分で体を動かせない寝たきりの人やまひがあり体の向きや姿勢を変えることができない人などがなりやすいです。



Q どうして（褥瘡）はできるのですか？

A 自分で動くことのできない人は、体の重さで圧迫を受ける部位の血液の流れが途絶えます。

血流障害により皮膚の組織や皮下組織が死んでしまうこと（壊死）により発生した皮膚の損傷が床ずれ（褥瘡）です。

市立小樽病院 形成外科では、医師と皮膚・排泄ケア認定看護師が床ずれのケア方法についてのご相談を受けております。

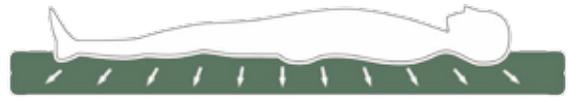
お困りの時は、早めにご相談下さい。

予防の方法

- 2～3時間ごとに体の向きを変え、柔らかめの枕で支え、圧迫が体の一部に集中しないようにします。



- ウレタンやエアマットレスなど、体圧分散寝具を活用しましょう。※これらの介護用品は介護保険によって貸与が受けられることがありますので、ケアマネージャーや市町村窓口にご相談ください。



- 車椅子は体に合ったものを使用るようにし、正しい姿勢と低・高反発などのクッションを使用し、30分～1時間に1回はお尻を浮かせる動作を支援して下さい。
- 失禁用（尿取り）パッドの使用やワセリン・はっ水クリームなどを塗り、尿や便の刺激から皮膚を守ります。失禁があり、おむつを使用している場合は通気性の良いパッドや紙おむつをこまめに交換し、皮膚がぬれたままにならないようにします。
- 栄養バランス、食事摂取量をチェックすることも大切です。
- 発熱がなければ、入浴やシャワーは可能です。床ずれ部位もシャワーで洗い流してください。

☆管理栄養士のレシピ☆ 「里いもサラダ」

1人当たりエネルギー
105キロカロリー
塩分 0.4g



【材料 / 2人分】

里いも 150g (3個程度)、たまねぎ 20g、ロースハム 1枚、調味料 マヨネーズ 大さじ1、柚子こしょう 少々

【作り方】

- ① 里いもは、たわしなどでよく洗い、皮付きのままレンジで約5分間加熱する。あら熱が取れたら皮をむき、くし型に切り冷ましておく。
- ② たまねぎは薄切りにして冷水にさらし、辛味を抜き、水をふき取る。
- ③ ハムは1cm角に切る。
- ④ ボウルに調味料を混ぜ合わせ、①～③を加えて和える。

里いも特有のぬめりは、真冬になるといっとう強くなります。このぬめりはガラクタンやムチンという成分によるものですが、血圧やコレステロールを下げる働き、脳を活性化させボケを防止する働き、また消化を助ける働きなど、いろいろな効果が期待できることがわかっています。

今回担当の栄養士
市立小樽病院 渡邊恵子



地域医療連携室ってどんなところ？

市立病院と地域の医療・市民をつなぐパイプ役

地域完結型の医療へ

「地域完結型医療」とは、日常の診察や健康診断は身近なかかりつけ医が行い、専門的な検査治療は総合（急性期）病院というように、医療機関が役割分担をして、一人の患者さんに関わっていく仕組みのことです。たとえば、かかりつけ医から紹介された病院で精密検査や手術を受け、病状が安定したら、かかりつけ医の元に戻る。必要なときはリハビリ専門病院へ転院するなどの例があります。

医療サービスへの期待が高まる中、地域医療連携室ではこの仕組みをうまく利用しながら、それぞれの患者様に合った医療サービスを受けただけのように、お手伝いをしています。



市立小樽病院
地域医療連携室
TEL 0134(25)1211 内 377



小樽市立脳・循環器・こころの医療センター
地域医療連携室
TEL 0134(33)4151 内 163

主な業務

- ・他の医療機関から（へ）の患者様の紹介窓口
- ・退院支援・医療相談窓口
- ・がん相談支援センター（市立小樽病院）
- ・市民講座、健康教室の企画、広報

新しい病院になります



現在、市立小樽病院と小樽市立脳・循環器・こころの医療センターを統合し、量徳小学校敷地内へ建設計画を進めています。

平成24年1月19日、新市立病院建設の工事入札の公告を行い、3月中に工事に着手し、約2年間の工事期間を経て、平成26年夏頃の開院を目指しています。今後、新市立病院の機能や建設の進捗状況などを順次、お知らせしていきます。

市立小樽病院

小樽市若松1丁目2番1号 TEL (0134)25-1211

小樽市立 脳・循環器・こころの医療センター

小樽市長橋3丁目11番1号 TEL (0134)33-4151

病院のホームページが新しくなりました。新URL <http://www.city.otaru.lg/med>



発行 小樽市病院局
編集 両院合同広報誌・HP委員会（事務局）経営管理部 管理課 TEL (0134) 25-1211 内線 304